

難聴児童の「伝えたい」を支えるために

— 難聴特別支援学級での取り組みを通して —



沖縄県名護市立大北小学校

伊波興穂

県内のろう学校と難聴学級の状況



- ・ろう学校1校
- ・小学校難聴学級5校
(北部地区には本校のみ)
- 本校難聴学級について
 - ・在籍児2名
 - ・他校より難聴児童の通級の受け入れ
 - ・幼稚園から難聴幼児の教育相談受け入れ

ろう学校から遠いため、様々な難聴児の相談が寄せられる

ろう学校と難聴学級の違いは

| | 良さ |
|------|---|
| ろう学校 | <ul style="list-style-type: none">・ロールモデルの存在・きこえない仲間との関わりが充実している・充実した情報保障(オーデオロジー、手話等も含め)・学年や障害の状態に応じた学習環境が整っている |
| 難聴学級 | <ul style="list-style-type: none">・きこえる仲間との関わりが充実している・大きな集団で学習できる・地域の中に居場所がある |



小学校で学ぶ良さを活かしながら、ろう学校のような**情報保障・学習保障・同じ障害を持った仲間との関わり**をどのように保障するか
→ 携帯情報端末を活用できないか



対象の児童について

今回は難聴学級に在籍している
児童2名への取り組みの中から
準ずる教育に沿って学習している
児童の実践を報告します

Aくんの実態



- ・小学5年
- ・中等度の難聴
(右:75.0dB 左:70.0dB)
- ・小1より難聴学級に在籍
- ・準ずる教育課程
- ・国語、算数、自立活動以外は
交流学級の児童と学習
- ・今年4月より野球部に入部

Aくんの実態

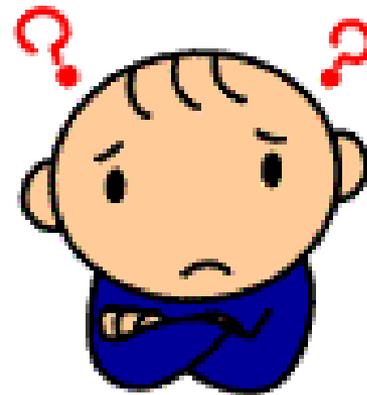
A児のコミュニケーションモードの選択状況

| | 教師とのやりとり (授業時) | 友達とのやりとり |
|------|-------------------------|--------------|
| 交流学級 | 音声 FMマイク パソコン要約筆記 | 音声 |
| 難聴学級 | 音声 手話・指文字 | 音声 手話・指文字 |

様々なコミュニケーションモードを対象に合わせて選択している

Aくんの実態

- 複数の音声を同時に判断することが困難
- グループ活動で自分の意見を伝えたり、
質問したりすることが難しい
- Q-Uテストの結果「侵害行為認知群」にプロット
→「失敗した時にクラスの友達は励ましてくれるか」の問いに
「あまりない」と回答
- 「きこえにくさ」を友達にも知ってほしいという思い
- 部活の送迎の際、保護者と電話でのやりとりに不安感



そこで…

●当初のねらい

- ① グループ活動や話し合い活動の中で、主体的に自分の考えを伝えたり質問したりできる
- ② 自分自身の「きこえにくさ」について、考えや思いをまとめ、友達に伝えることができる
- ③ 保護者や教師とメール機能を使って連絡を取り合うことができる

取り組み① iPadで筆談

① 友達と筆談で関わるツールとして

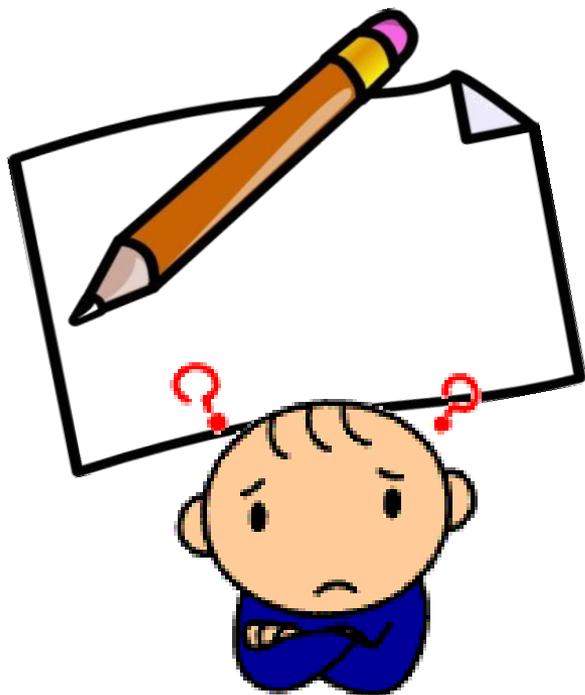


「カメラ」「筆談パット」「Notability」を活用

① iPadで筆談



紙と鉛筆での筆談



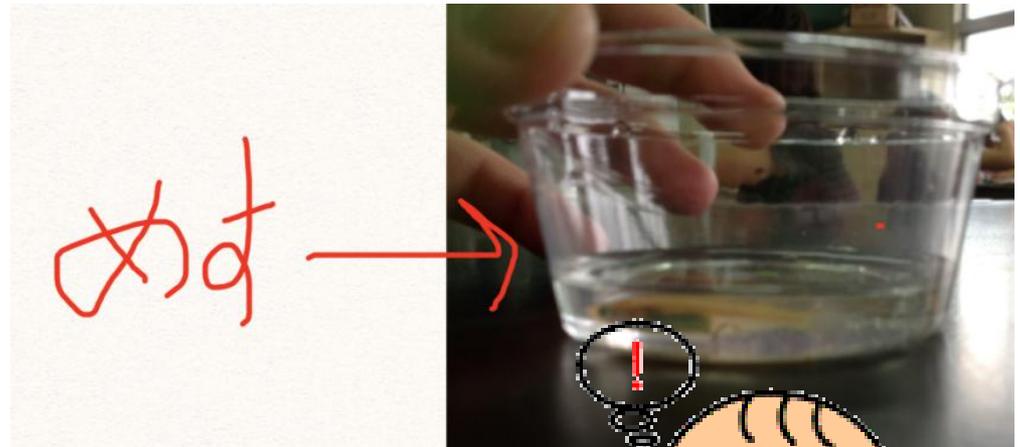
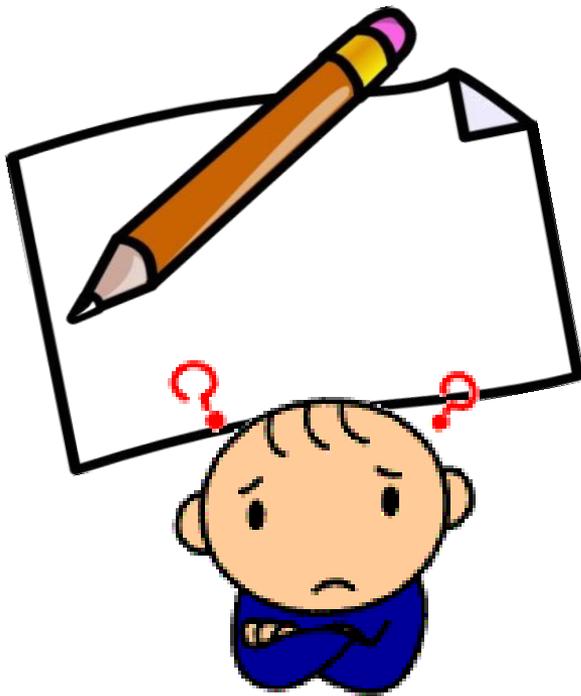
言葉の意味がわからない

① iPadで筆談



紙と鉛筆での筆談

iPadで写真や絵に文字を書き込む



言葉の意味がわからない

指さしてもわかる
みんなで画面を共有できる

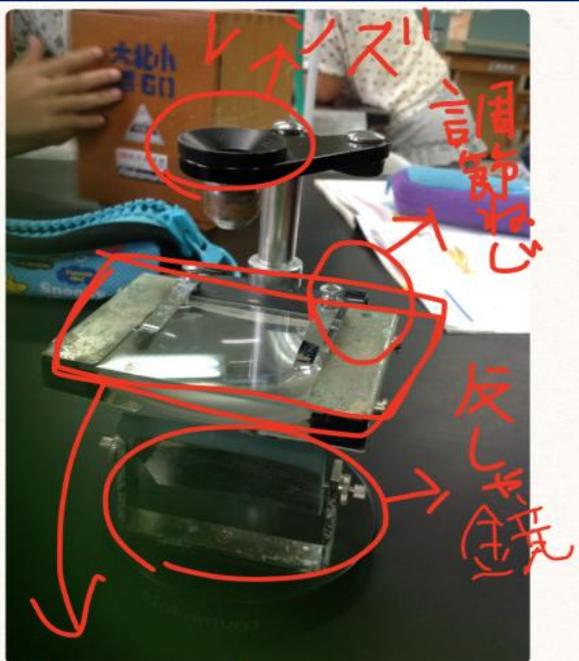
① iPadで筆談



<理科の観察や実験場面での活用を試みた>

5月

A児を含め同じグループの児童全員が自由に書き込んで使えるようにした



のせ台

A児は友達が書き込む様子を見ているだけだった



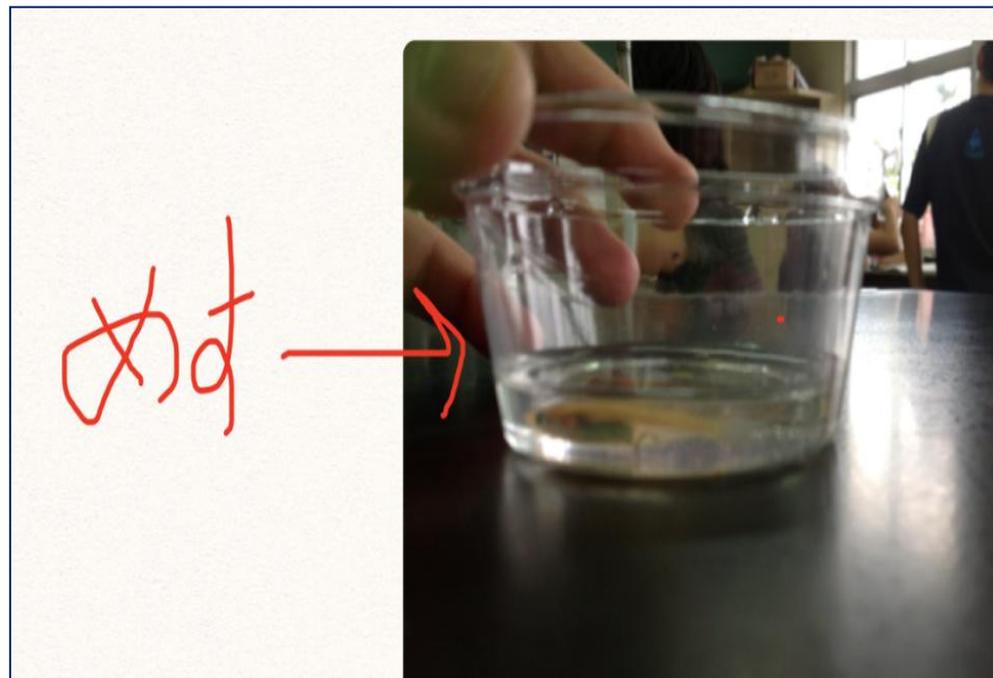
【のちの聞き取りでのA児のコメント】
「最初は**恥ずか**しかったから、使いたくなかった」

① iPadで筆談



6月

A児が初めて自分の考えを友達に伝えられた



A児が文字を書き込んだメモ



指さしで友達に伝える

① iPadで筆談



7月

A児が初めて自分から友達に筆談で質問できた



① iPadで筆談



10月

A児から友達へ教えてあげることにもできた



常に情報の「受け手」だったが、初めて情報を発信できた

→ 社会や外国語活動など他教科のグループ活動でも活用中

① iPadで筆談



- iPadを使った学習をふりかえった時のA児の言葉
 - 紙(の筆談)よりも写真(iPad)がわかりやすい。
(紙はなんて書いていいかわからない時がある)
 - 紙の時は恥ずかしい。みんなが集まってくるから。
 - iPadはみんなで使うから、みんなで使っている時は
はずかしくない。

① iPadで筆談



● 児童の変化

- ・ iPadを使用することで自ら友達へ尋ねることができた
 - 言葉だけではわからないことが写真を介することで友達と情報を「共有」できた
 - A児にとって紙の筆談は「自分だけ」が使うもの
iPadは「みんなと一緒に」使えるもの
- ・ 同じグループの友達がわからない時にA児から友達へ教えてあげる場面も見られるようになってきた

A児にとっては**みんなと一緒に共有できた**経験が自ら友達に「伝える」行動につながったのではないか。

取り組み② iPadでプレゼン

- ② 自分の気持ちや考えを整理し、友達の前でプレゼンするためのツールとして

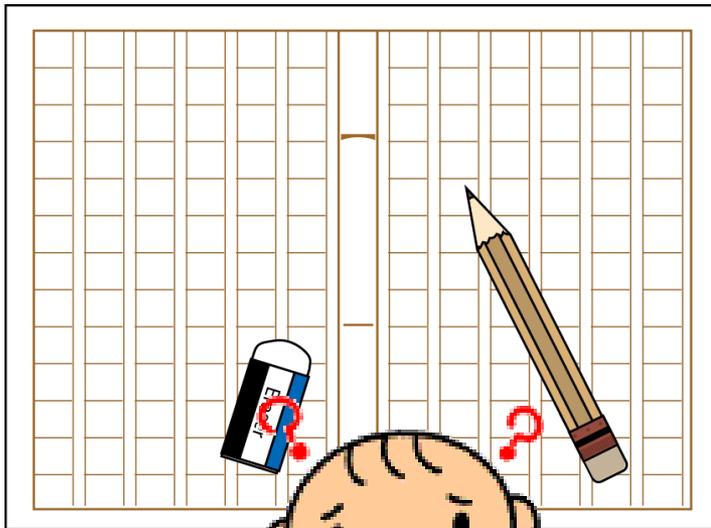


「ロイロノート」を活用

② iPadでプレゼン



文章を書く

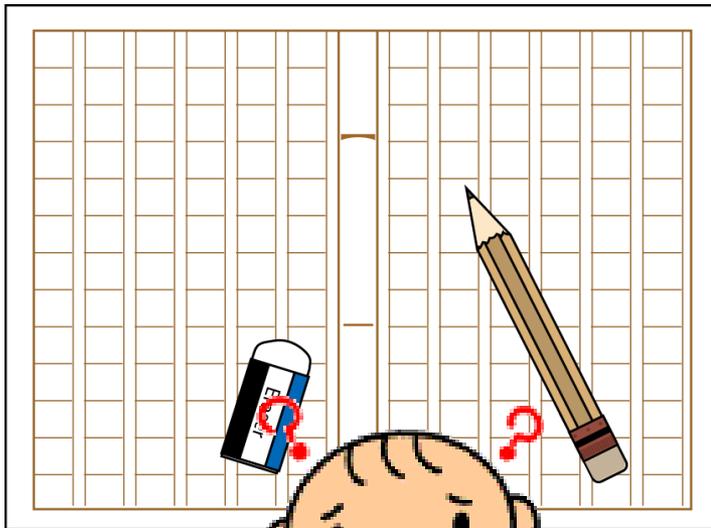


書き言葉で気持ちを表現することが苦手

② iPadでプレゼン

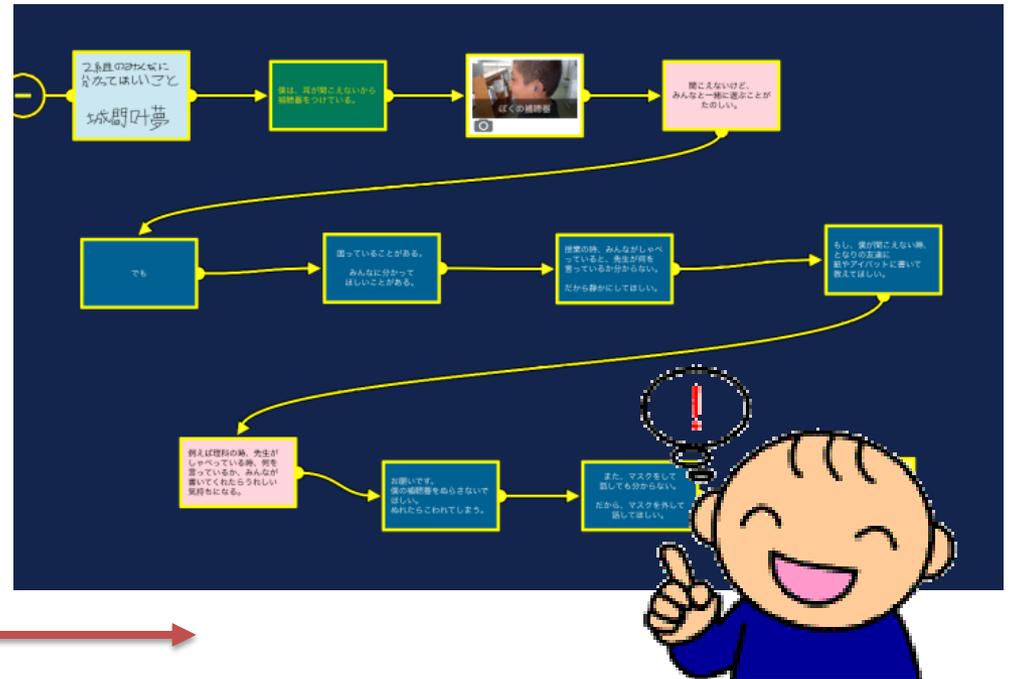


文章を書く



書き言葉で気持ちを表現することが苦手

「ロイロノート」で文を構成



短い文章をつないでプレゼン作成ができる
文章全体の構成が見てわかりやすい

② iPadでプレゼン



「ロイロノート」を使った文作りとカードの並び換え



ローマ字で入力



カードの順番を入れ換えて
構成を考える

② iPadでプレゼン



難聴理解の啓発授業（A児の作成したスライドの一部）

1

聞こえないけど、みんなと
一緒に遊ぶことがたのし
い。

2

でも、困っていることがあ
る。

みんなに分かってほしいこ
とがある。

3

もし、僕が聞こえない時
は、となりの人に紙やアイ
パットに書いて教えてほし
い。

4

もし、みんなと同じように
聞こえる耳だったら、たく
さんの中でおしゃべりをし
たい。

② iPadでプレゼン



難聴理解の啓発授業の様子

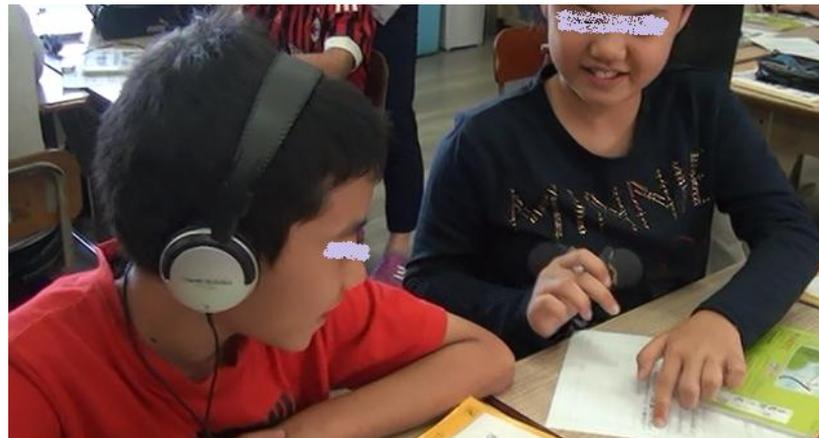


② iPadでプレゼン



授業後の交流学級児童からの感想

- みんなと遊ぶのや勉強することが好きだと言ってくれたのが嬉しかった。
- 聞こえないと不安に感じた。それでも一生懸命話を聞こうとしているAくんはすごいと思った。
- もっとAくんのことを知りたいと思った。



② iPadでプレゼン



発表後のA児の感想

した。僕は、みんなに
したけど、みんなは、って
発表しました。でも、手
話をほめられたけど、次の
発表は、手話を使っていき
たいです。
五年二組のみんなが僕
の感想を書いてくれて
ありがとうごさしまし
た。みんなが僕が
と目かけてくれて、うれ

い気持ち
になります。
みんなと一系者に
勉強をすすらしたい事
なので、ありがとうござ
いました。
みんなが静かに聞いていた
か、うれしかったで
す。
みんなと一系者に勉強
をいっは、い進んでかん
は、うれしいです。

発表できた**自信**と友達に分かってもらった**喜び**を
感じる事ができたのではないか。

② iPadでプレゼン



〈 iPad導入前後でのQ-Uの比較〉

「クラスの人が励ましてくれることがあるか」

「クラスの人とは協力してくれるか」の質問項目に対して…

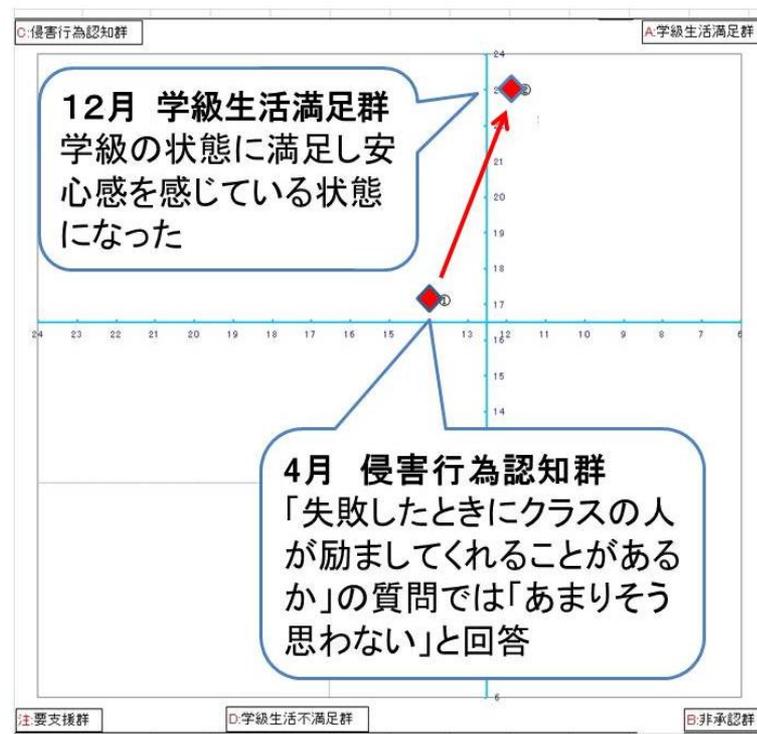
4月→「あまりない」と回答

12月→「とてもある」と回答

わかってくれる友達がいる



交流学級での所属意識の高まり



取り組み③ iPadでメール

- ③ 保護者や教師とメール機能を使って連絡を取り合うためのツールとして

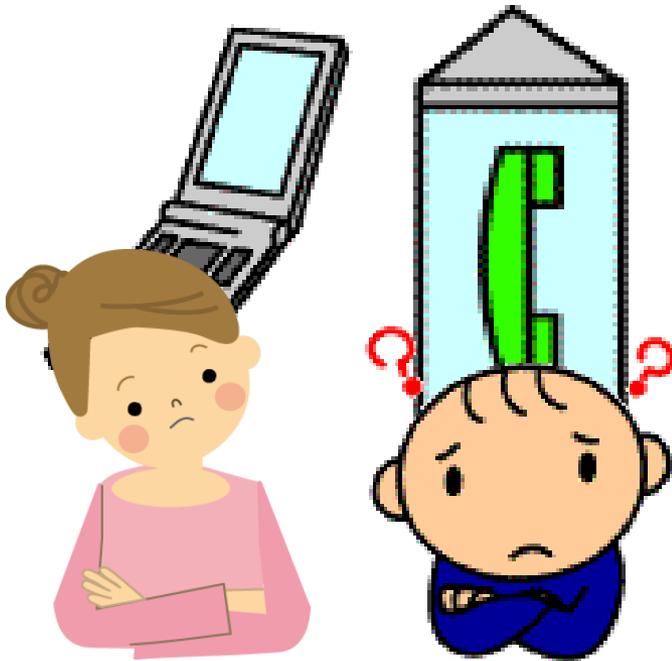


「メール」を活用

③ iPadでメール



電話でのやりとり



うるさい場所では聞こえない

③ iPadでメール



電話でのやりとり

メールで保護者や教師とやりとり



うるさい場所では聞こえない

伝えたい事が正しく伝わる

③ iPadでメール



学習の経過

- ・すぐに写真の添付方法を理解できた
- ・交流学級からの宿題でわからない問題についてメールで質問することができた（右の写真、6月）
- ・台風の際、休校の有無について質問できた（7月）
- ・保護者とメールでのやりとりを開始（9月）
- ・部活動後、保護者と連絡の行き違いがなくなった

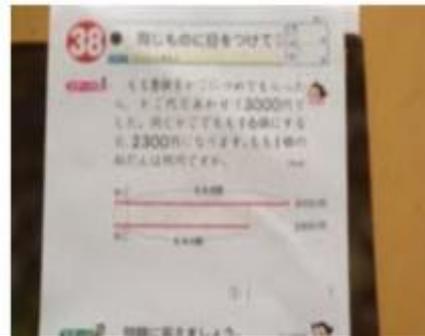


To: A-kun
5E

A児から担任へのメール

iPadから送信

こんにちは、宿題分からないので、ヒント教えてください。



困った時に自らiPadを活用できた
→ A児にとってiPadが生活の一部に

今後の見通し

① iPadで筆談

- ・ 同じ難聴者と関わる場面での活用へとつなげたい

② iPadでプレゼン

- ・ 聴こえない児童と関わる機会を増やしていきたい
(ろう学校や他校の難聴学級との連携)

③ iPadでメール

- ・ 同じ難聴者とのやりとりにつなげていきたい
- ・ 文を書くことへの抵抗感を減らしていきたい

今後の見通し

iPadで同じ障害のある仲間とつながる機会を設定したい

→ 将来、**デフコミュニティ**と**健聴者の社会**、
どちらへも**自分で選択し、関わって**いけるように

iPadなどの携帯情報端末を活用する



難聴児が小学校で学ぶことの良さを活かしながら
小学校で学ぶ上での課題や地理的な課題を
解決していくために効果的なツール



ご清聴ありがとうございました

